

S. Watanabe の憂鬱

フィクション作（事実無縁の想像作品）

今まさにあの時代の勝手な判断に溺任せた自分を後悔しつつ、
適材適所という言葉の意味に今ようやく気付いた今・・・、
既にもう老いた自分を悔やんでもどうしようも出来ないこと、
まさかこんな現実になるとは・・・露知らず・・・、
形ばかりの勝ち戦で・・・憂鬱の極みそのものと言うべきこと、
このとうきび畑の地で、これからも延々と続く暗闇のような憂鬱に
心痛まんざること・・・これもまた自なり・・・！